平成26年度 協働による環境学習推進事業(岡山県)

「つながる ひろがる 環境教育の輪」

第2回 おかやま環境教育ミーティング 報告書

おかやま環境教育ミーティング実行委員会

第２回 おかやま環境教育ミーティング
－つながる ひろがる 環境教育の輪－

＜日時＞ 平成 27 年 2 月11 日（水・祝）10 時 00 分～ 17 時 00 分
＜会場＞岡山国際交流センター 8F イベントホール 他
＜参加者＞ 172 名（一般参加者 145 名 (当日参加 14 名)、スタッフ等 27 名）
＜ブース出展＞ 31 団体
＜コーディネーター＞ 西　　直人 氏（リードクライム (株)　代表取締役）
＜基調講演 ＞　　寺 田　正 伸 氏（埼玉県川口市立根岸小学校　教諭）
＜事例紹介 ＞　　宇都宮 貴子 氏（瀬戸内市立邑久小学校　教諭）
　　岩 尾　友 恵 氏（岡山市立平井小学校　教諭）
　　竹 島　　潤 氏（岡山市立京山小学校　教諭）

みんなが参加して交流できるスタイルで
活動の輪が広がるミーティングです！

2014 年 11 月、岡山市で「ESD に関するユネスコ世界会議」が開催され
「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」は終わりましたが、
持続可能な社会はまだ実現されていません。
持続可能な社会づくりに向けて、
これからの環境教育を考え、話し合う場をつくりました。

目 次

＜内容･スケジュール＞

10：05　開会宣言　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　　岡山県環境文化部 新エネルギー･温暖化対策室 室長　高田 豊和 氏
10：07　オリエンテーション
10：15　基調講演「未来を切り開く環境教育は協働で進めよう」・・・・・・4
　　埼玉県川口市根岸小学校 教諭　寺田　正伸 氏
11：00　知り合う時間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　　リードクライム（株）代表取締役　西　　直人 氏
12：00　昼休み（ランチミーティング）　・・・・・・・・・・・・・・6
13：00　ブース展示（活動･学習プログラム紹介）
14：00　おかやまエコスクール表彰式　・・・・・・・・・・・・・7
14：15　事例紹介　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
　　(「協働」をテーマに県内の学校における環境学習･実践事例）
　　1) 瀬戸内市立邑久小学校 教諭　宇都宮 貴子 氏
　　2) 岡山市立平井小学校　教諭　岩尾　友恵 氏
　　3) 岡山市立京山中学校　教諭　竹島　　潤 氏
14：45　パネルディスカッション　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
　　全員参加 フリップ形式ディスカッション
16：00　協働ミーティング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
16：50　全体のふりかえり
17：00　閉会挨拶
　　岡山県環境文化部 新エネルギー･温暖化対策室 室長　高田 豊和 氏

＜参加者の声＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

開会宣言 10：05

岡山県環境文化部 新エネルギー･温暖化対策室 室長　高田 豊和 氏

オリエンテーション 10：07

1）ミーティングの趣旨　実行委員長　田中 康敬

目的は３つ 環境教育に興味がある方が ①集まる ②知り合う ③つながる

2）かんきょうひろばの説明　事務局　山口 康人

交流･情報共有、出前講座、指導者養成、企画提案を行っている。
参加登録をお願いしたい。

基調講演「未来を切り開く環境教育は協働で進めよう」10：15

＜埼玉県川口市立根岸小学校 教諭　寺田 正伸 氏＞

「未来を切り開く環境教育は協働で進めよう」をテーマに、まず環境教育が目指すものは何かを確認し、越谷市立大袋東小学校での実践事例から様々な主体との協働のポイントを紹介いただき、学校との協働のあり方について講演いただきました。

『環境教育のめざすものは ESD の一部であり、ESD で培いたい「価値観」や育みたい「能力」を身に付けるために、大切にしている学びの「手法」の１つとして『多様な立場・世代の人々と学ぶこと』=『協働』がある。』

越谷市立大袋東小学校の事例では、「自然・人・物に優しい東っ子」を合言葉に、環境教育で学んだことの実践を大切にされているそうです。学校主催のエコフェスティバルでは、教室ごとに様々な体験型学習のブースを設け、1 年～ 6 年の縦割りグループで 30 分体験型学習を基本とし、実物に触れる機会を提供されています。

その中で、企業、NPO、地域、行政との協働に取組み、それぞれの主体の特徴があり、『協働のあり方』のポイントとして、

①ねらいの明確化
②持たない物を補完しあう
③人脈等の重要性

を指摘され、お互いが Win-Win の関係になることが大切であり、実践後の評価や情報発信についても大切であることを示されました。

また、敷居が高いと思われる学校との協働のあり方についても、**①まずは学校のことを知ること（指導要領や教科書）　②顔を見せること　③トップ（市長や校長）を動かすこと**等がポイントであるとのお話がありました。同じ教員の立場の方へも、ESD の必要性を広げることや地域の人とつながりをもって授業をやってもらいたい等のメッセージを伝えられました。

知り合う時間　11：00

＜全体コーディネーター　西 直人 氏（リードクライム（株）代表取締役）＞

『昨年は「知る」から「つながる」だったが、今年は「つながる」から「ひろがる」を目標にして、つながりが続いていく、つながることによって動き出していきたい。』

1) 4人一組になり1人ずつ2分話した後、まとめ2分（計10分）。これを3ラウンド行う。
2) A4用紙に①名前･所属、②現在の活動内容、③本日の目標（本日持って帰りたいこと）を記入する。※ブース出展者は☆マークを記入し、それを元に2分間スピーチ
3) 3ラウンド目は寺田教諭の基調講演で印象に残った言葉等をA4用紙に記入･発表して共有する。

≪講演質疑・感想≫

Q1-1　企業やNPO、行政との協働は大変だと思うが、PDCAはどう回しているのか？
A1-1　エコについてはやれることが多い。子どもは学んで実践し、うまくできなければ次学年に引き継ぐといったようにPDCAを回す。

Q1-2　子どもはどう変わったか？
A1-2　自分たちにできることを実践することに自負と誇りを持っている。それを報道されるとさらに喜ぶ。生き物が好きな子どもが増えた。数値化はできないが自然のよさを感じてもらうのが大切。

Q2　ビオトープは本当に小学校に必要だろうか。既存の運動場や軒裏などすべてがビオトープであり、生命が生きる場所を新たに作らなくてもよいのではないか。ビオトープに反対ではなく、ビオトープをもう一度考え直したい。その自覚によって次世代に伝えていく方法を考えられるのではないか？
西氏：生命、ビオトープ、自然環境の価値観が違う人との協働についても補足いただきたい。

A2　ビオトープは概念であり、ベランダに水を入れたコップを置いただけでもビオトープになる。学校のビオトープの意味は3つあり、1つめは生きもの本来の場所、2つめは学校には開発が入りにくいので長年残せる場所、3つめは実験観察ができる場所である。砂場や鉄棒等、法律上で学校に必須な施設がいくつかあるが、ビオトープもその一つに入ってほしい。また、ビオトープを知っている教諭はほとんどいない。地域の方やビオトープに思いのある方と一緒に管理しないと難しい。珍しい幼虫がいても誰も気がつかず、観察に来た外部の方が見つけたということがあった。存在の価値を見出してくれるのは外部の方が多い。ビオトープを作り、管理し、活用することは協働なくしてはできない。

昼休み（ランチミーティング）12：00

≪アピールタイム≫（12：15～　１団体　３分 ×15 団体 ）

①株式会社ハウジング山陽
②明和製紙原料株式会社
③岡山市環境学習センター「めだかの学校」
④被曝牛のいる希望の牧場を支援する会
⑤みずしま財団
⑥一般社団法人農山漁村文化協会中国四国支部
⑦岡山県自然保護センター
⑧第２回学校の森子どもサミット実行委員会事務局（認定ＮＰＯ法人 共存の森ネットワーク）
⑨国立吉備青少年自然の家（代理）
⑩岡山環境カウンセラー協会
⑪岡山理科大学　自然を学ぶ会
⑫プロジェクト・ワイルド＋岡山（PWPO）・岡山県シェアリングネイチャー協会
⑬NPO 法人だっぴ
⑭岡山市 ESD 世界会議推進局
⑮おかやまダルマガエル保全プロジェクト

ブース出展 13：00

≪出展団体･個人≫

高梁川流域学校（一般社団法人水辺のユニオン）
子ども防災ネットワークおかやま（一般社団法人チカク）
岡山県シェアリングネイチャー協会
自然体験リーダーズクラブ
プロジェクト・ワイルド＋(プラス）岡山
公益財団法人　岡山市公園協会　操山公園里山センター
株式会社トンボ
株式会社ハウジング山陽
岡山県自然保護センター
明和製紙原料株式会社
おかやま大野ダルマガエル保全プロジェクト / 株式会社サンキョウ - エンビックス
倉敷総社温暖化対策地域協議会
認定 NPO 法人おかやまエネルギーの未来を考える会（エネミラ）
電一郎先生（土井 伸一郎）
公益財団法人水島地域環境再生財団（みずしま財団）
環境省中国四国地方環境事務所

千年の森つくりグループ
たけべの森公園オートキャンプ場
NPO 法人エコネットワーク津山
おかやまエコマインドネットワーク
エコロジー東備
旭川源流大学実行委員会
岡山ＥＳＤ推進協議会・岡山市
NPO 法人だっぴ、かいわれの会
岡山環境カウンセラー協会
岡山大学環境部 ECOLO
第２回学校の森・子どもサミット実行委員会
アッパービレッジ有限会社
一般社団法人　農山漁村文化協会
岡山理科大学　理学部　基礎理学科
岡山理科大学　ボランテイア

おかやまエコスクール表彰式　14：00

＜プレゼンテーター　かんきょうひろば運営委員会 副委員長 田中 康敬＞

岡山市立西大寺小学校、岡山市立平井小学校（○）、瀬戸内市立邑久小学校（○）、
高梁市立有漢西小学校、高梁市立成羽小学校、津山市立勝加茂小学校、鏡野町立南小学校
※「○」：表彰式に出席

事例紹介（「協働」をテーマに県内の学校における環境学習･実践事例） 14：15

1) 瀬戸内市立邑久小学校 教諭　宇都宮 貴子 氏

環境問題の現状とその原因を探り、一人一人が地球に与えている負荷を知り、環境を守るためにできることを考え、解決策を実践したり、地域に発信する活動を工夫したりすることをねらいとして小学 5 年生を対象に環境学習を実践されました。

環境学習は、課題をつかむ → 調べる → 温暖化の話（エネミラ） → エネルギーなるほど体験（エネミラ)→ ふしぎ電気実験教室（電一郎先生） → 出前授業（岡山村田製作所） → まとめる → 環境エコ新聞を作成・応募 → 発信するという単元構成になっていました。

①専門的な知識と効果的な体験
②未来に展望が持てる学習展開
③地域に根差した環境学習
という理由から積極的に外部から講師を招いていました。

これらの活動から、自分の問題として課題意識をもつことができ、様々な体験学習を意欲的に取り組むことができました。加えて､複数の協働学習を組み込むことによってテーマ・知識が深く広くなり、教科を横断して学習できたという成果がみられたそうです。

最後に『単元構成の「発信」の部分が弱く、子どもたちの実践力の高まりを見とることができなかった』､『もう少し家庭を巻き込むことで、もっとよい協働学習となり得たのではないか』という点を協働の課題として挙げられました。

2) 岡山市立平井小学校 教諭　岩尾 友恵 氏

『「総合的な学習の時間」～外部団体・人材との連携を通して～』と題して、岡山市立平井小学校における環境教育の実践事例を紹介されました。

総合的な学習の時間では、「よりよい自分を求めて」という目標を持っており、①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現により探究的な学習（思考の深まり）を目指して実践されていました。その中で、

【共同】
一緒に仕事をする

→

【協同】
役割を分担しながら
仕事をする

→

【協働】
目標を共有しながら
力を合わせて仕事をする

という流れを意識していると提示されました。

地球温暖化防止活動推進員による講座、体験学習、夏休みでの家庭でのエコチェックを踏まえ、①紙ゴミダイエット、②節電、③エコクッキング、④エコバッグ推進、⑤アグリ活動、⑥川クリーン作戦、⑦食のCO_2を減らそう、⑧リユース・リサイクル雑貨という８つのプロジェクトチームにわかれて活動を開始。「平井発エコライフプロジェクト」では、１人でも多くの方に取り組んでもらうための「戦略会議」や、授業参観日を利用して保護者にもエコライフの重要性を訴える「平井エコ会議」を開催されました。

これらの取り組みから保護者、地域、専門機関、企業の方々と連携・協力ができたことで理解が深まったという成果がみられました。

その中で、学校での協同学習から実生活での協働へ変化することを目指して活動されていました。最後に『今回学んだ児童が持続可能な社会作りに貢献できる人材になることを期待している』と締めくくられました。

3) 岡山市立京山中学校 教諭　竹島 潤 氏

ESD 視点での単元学習プログラムを中心に、岡山市立京山中学校における連携・協働の実践事例を講演いただきました。

平成 24 年にユネスコスクールに認定され、これまでの取り組みを ESD の視点で整理・改善されてきました。「総合的な学習の時間」と「教科横断的な単元学習プログラム」の 2 つにわけて事例紹介されました。

【ESD の視点を踏まえた総合的な学習の時間】

1 年生は探究活動の基礎を学んだ後に新聞にまとめて発信、2 年生は修学旅行に向けて水俣病の学習を実施、3 年生は修学旅行で水俣病当事者の方や行政、関係者の方々との交流等、当事者の実際の声を聞くことで学びを深める水俣フィールドワークを行いました。総合文化発表会では、総合的な学習の時間の総決算として 3 年生による発表がありました。

【ESD の視点を踏まえた教科横断的な単元学習プログラム】（美術科、家庭科、社会科、英語科）

各国の環境問題について留学生による英語プレゼンをもとに意見交換を実施されました。その他にも、JICA の隊員、地元農業経営者や環境学習センターの方々と、多様な視点から「食」をテーマに学び、食糧問題や貧困に対する自分の行動指針を英語で提案するという授業も展開されていました。

生徒からは様々な驚きや気づき、きっかけを得られるという成果がみられたそうです。一方で、教科の学習意欲をさらに高める工夫が必要だということが今後の課題としてみえてきました。そこで今年度は、社会科と英語科の学習プログラムに取り組む予定になっていて、アフリカのことを英語で PR することを計画中です。

こうした連携・協働の中で**①信頼関係を築き、位置づけを明確にする打ち合わせ、②お互いに目的を達成し、その相乗効果を図る Win-Win な関係、③教員・学校の“有限性”を自覚し、連携・協働を“楽しむ”こと、④熱意と度量が大切**だとおっしゃっていました。

パネルディスカッション　14：45

コーディネーター：西　　直人 氏 (リードクライム (株) 代表取締役)
パネリスト：　　寺田 正伸 氏 (埼玉県川口市立根岸小学校 教諭)
岩尾 友恵 氏 (岡山市立平井小学校 教諭)
堤　　宗之 氏 (NPO 法人エコネットワーク津山)
高田 豊和 氏 (岡山県環境文化部 新エネルギー･温暖化対策室長)

≪全員参加型　フリップ形式　ディスカッション≫

1）テーマを発表
2）考えを A4 用紙にフリップに記入
3）4 人 1 組でディスカッション
4）いくつかのグループの意見を共有
5）パネリストからコメント (A4用紙は終了後回収)

【テーマ :「環境」「協働」について】

(1) 単体で進めるのではなく、協働で進めることの意味･意義 (メリット) は？

(参加者より)

・多様な視点、意見 (多様性)
・相乗効果
・ネットワーク、知識が広がる
・知識、力、能力、技能の共有
・満足感 (モチベーション UP)
・補完しあえる
・専門性 UP
・スピード、効率 UP
・新たな気づき

(パネリストより)

・1+1=2 ではない
　…協働による化学反応が楽しい
・新しい出会いがあり、世界の広がりや元気をもらえる
・専門性の向上
　…子どもの目の輝きが違う
・協働は必要条件

Q1 **協働後のフィードバックは可能か？**
A1 高田氏 出前講座を年間 300 回しており、ほとんどは小学校で実施している。
環境学習センター「アスエコ」が中心で行っているが、いい感想しか入ってこない。PDCA を回すためにもアンケート等で遠慮無く意見を言ってほしい。

Q2 **固定されたメンバーや長年の付き合いがあるなかで、どうやってお互いのモチベーションを高めるか？**
A2 堤 氏　県北で活動しているが、県北は環境がいいためか活動が活発にならない。
県南では活発なので元気をもらえる。県内で北と南で違う部分があるので、もっとつながる仕組みを考えたい。

（2）協働の危うさ、リスク、デメリットは？

（参加者より）

・持続性（つづかない）　・強い人にひっぱられる
・意見のすれちがい　・目的、ねらいのズレ
・時間がかかる　・調整が難しい
・責任の所在がわからなくなる
・デメリットはない

（パネリストより）

・時間や力が何倍も必要
・行政ができないところは我々NPO がカバーする
・打ち合わせが不十分だと意図が違ってくる
・マイナスだとは考えない
　…危うさそのものをプラスに発想転換

（3）学校との協働、地域内の協働を始めるときの課題や大事にしたいポイントは？

（参加者より）

・目的を明確にする
・相手をよく知る、お互いを知る
・よく話す、聞く、コミュニケーション
・人材（キーパーソン）
・資金
・コーディネーター
・Win-Win な関係

（パネリストより）

・交渉が難しいこともあるが、恐れてはダメ
・目指すゴールをしっかり話しあう
・楽しくないとうまくいかない
・熱意だけでなく、いいしかけを考える
　…Win-Win の関係ができる提案ができるか
　　前向きな人に声をかけたり、声をかけたい人の
　　知人に入ってもらうとうまくいく

Q1 **協働は役割を明確にし、チームワーク、妥協や譲り合いも必要→どこまで妥協できるか？**
A1 寺田氏　かなり妥協している。みんな考えは違うのだからそれでよい
　　岩尾氏　安全性などで妥協できない部分はある
　　堤　氏　お互いを知ること。知り合って工夫するしかない
　　高田氏　できる･できないをハッキリ伝える。できないことをできるようにいわない。

（4）協働を続ける、広げるための課題や大切にすべきポイントは？

（参加者より）

・記録する　・広報、発信をする
・無理をしない　・予算（資金）
・妥協する　・フィードバックする
・楽しみをつくる　・コーディネーターの育成
・PDCA　・目的、目標の再確認
・仕組み
・先生方にこのミーティングへ来てもらう

（パネリストより）

・地域の人…近所であることは続けていく上で重要
・信頼…人と人、また補助金の使い道は公正かなど
・尊敬と外へアピール…協働のことを他の先生や
　　外部にしっかりアピールする
・記録に残す…学校現場も人事異動があるため、
　　協働プロセスを記録に残す

協働ミーティング 16：00

・こんな協働を始めたい、こんなつながりを作りたいという参加者が、内容を記載したフリップボードを持ち、「この指とまれ」で有志を募集。「こんな○○」のお題を募集します。(できれば 20 程度)
→気になるお題のもとに集まって、この指とまれ方式の座談会
→人間ポストイット・人間 KJ 法アレンジバージョンで
　この指とまれ方式の出会いの座談会タイム
→集合離散自由！途中で新たなテーマ OK

＜募集のあった協働テーマ＞

・若者の参加
・自然環境を通じ、木の好きな人
・岡山 ESD 学習プログラムを作りたい
・岡山市エコシティ構想を考える
・食とエネルギーのワークショップイベント
・中山間里山集落を若者よそ者と盛り上げ
・都市と農村を結ぶ
・学校の森林環境教育を発信
・活動地域以外の地域の活動を活発に
・よろずの神プロジェクト
・高齢化と環境問題を近所でどう進めるか
・地球温暖化による疫病
・倉敷市環境学習センター応援チーム作り
・田んぼ、ダルマガエル等生きもの、食べ物
・子どもたちの理科好きを増やす
・里山で遊ぼう
・原発をなくしたい
・エコフェスティバルをはじめよう
・国際交流と環境
・地域づくりや地域活性化
・高梁川流域学校の協働の仕組み作り
・大多府島産の珍しい芋で石焼きいも

全体ふりかえり 16：50

・締めくくりに今日 1 日の感想を協働ミーティンググループ内で一言ずつ

閉会挨拶 16：55

岡山県環境文化部 新エネルギー・温暖化対策室 室長 高田 豊和 氏

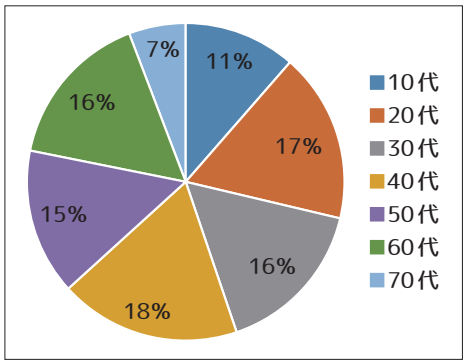
今回のテーマは「つながる ひろがる」だが、つながるだけでなく、素敵な化学反応が起きてほしい。第 3 回を 8 月の平日に開催してはどうかという意見があるので、アンケートに来年してほしい内容等も含め意見をいただきたい。

参加者の声（アンケートより抜粋）

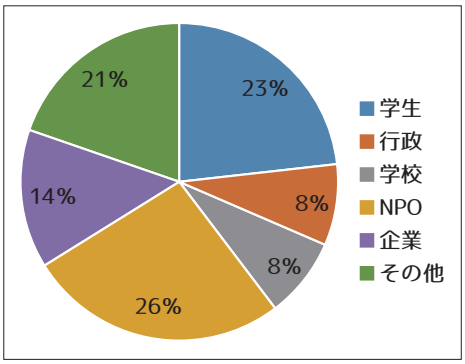
■参加者のみなさんについて

・参加者の年代は、10代～70代までの幅広い方々に参加いただいた（図1）。
・参加者の所属についても、NPO(26%)や学生(23%)を中心に企業、行政職員、学校関係などの多様な方々に参加いただいた（図2）。
・参加したきっかけについて、紹介(39%)が最も多く、メール(22%)やチラシ(20%)を見て参加された方が多かった（図3）。

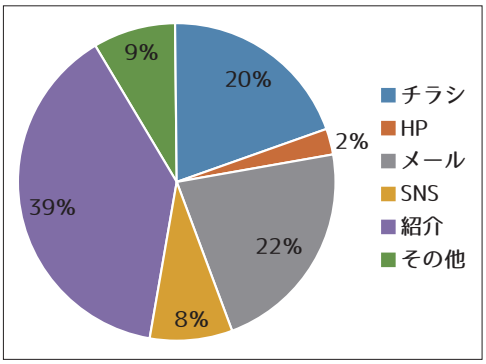
（図1: 年代別の参加者数）



（図2: 所属別の参加者数）



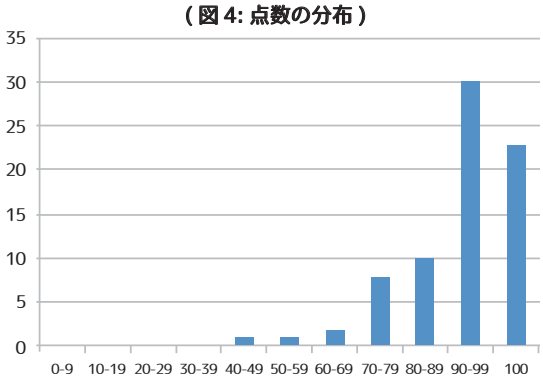
（図3: 参加したきっかけ）



Q. 第2回おかやま環境教育ミーティングの内容は、あなたの目的や期待を100点とした場合、何点でしたか？

・参加者の大部分の方かあら90点以上の評価をいただいた（平均点87.9、図4）。
・参加した団体や人とのつながりができたことや参加者が「話せる」「意見が言える」スタイルを評価する意見が多かった。
・一方で、全体を含めてブース展示や交流の時間が足りないなど内容を詰めすぎていることへの指摘や「環境」「環境教育」についてもっと知りたいという要望もあった。
・満足度について、「基調講演」、「知り合う時間」や「ブース展示」は40%以上の方が満足と回答し、「事例紹介」、「パネルディスカッション」や「全体ふりかえり」は30%以上の方が満足と回答した。「ランチミーティング」は18%の方々が満足と回答し、最も満足度は低くなった（次ページ 図5～11）。

（図4: 点数の分布）

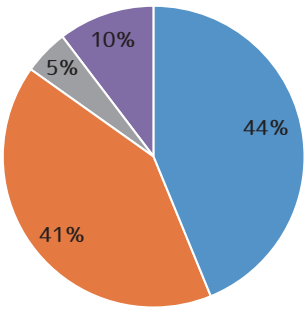


【その理由（一部抜粋）】

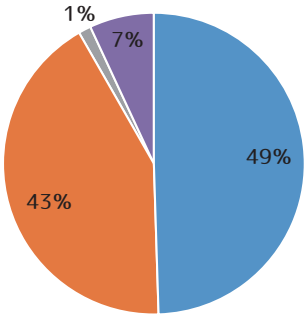
・楽しい時間でした。ありがとう！
・考え方が違う人たちとたくさん話せる貴重な機会だった
・環境に対してこれだけ多くの方たちが集まったことに驚き！これから実現しようと思っていたので、いろんなエッセンスがもらえて嬉しい
・はじめての参加でしたが、思った以上に様々な分野の方々と出会うことができた
・ブース紹介をもっとしたかった
・知り合う時間をもう少し増やしたらいいと思う
・人と人がつながる、とてもよい場でした。ただ、もう少し環境のことについてもっと知りたかった
・様々な業種の方と知りあえ、その活動を知ることができたので、内容も参加者が参加できる方法がとられていたため
・聞くだけでなく意見が言えたり、少人数で話ができてよかった
・たくさんの方と出会い、つながることが出来、いっぱい元気をいただきました
・ブースの時間が短かった。つながりづくりの時間が素晴らしかった。
・盛りだくさんで充実していましたが、少し時間が足りないと思う部分があった
・まだエコに興味のある人しか参加していないので、もっと幅広い人たちに参加してもらいたいから
・講演や事例発表の時間が長く、あまり共有（交流）の時間がなかったからです

【各セッションについて (満足度)】

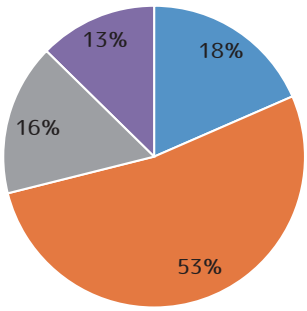
(図 5: 基調講演)



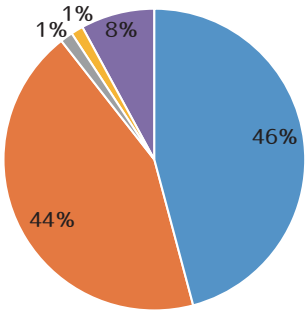
(図 6: 知り合う時間)



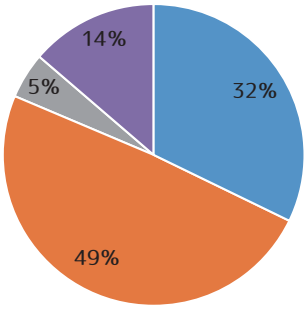
(図 7: ランチミーティング)



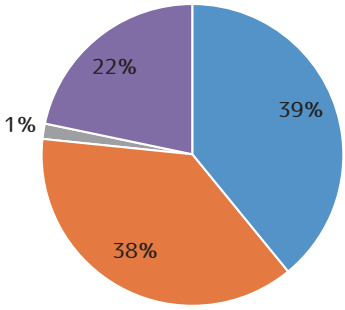
(図 8: ブース展示)



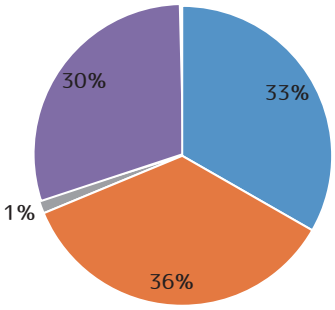
(図 9: 事例紹介)

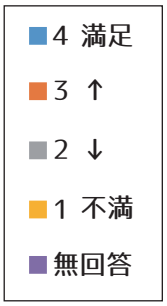


(図 10: パネルディスカッション)



(図 11: 全体ふりかえり)





Q. 本日の参加の目的を教えてください

・参加目的には、「つながり」「交流」など協働のためのネットワークづくりを目的とする方が多く、「環境」「環境教育」「環境教育の事例」について知識や理解を深めたいという方も比較的多かった。

・いろんな人の意見をききたい

・環境教育とは何かを知る

・活動PR

・環境学習の知識を増やすため

・学習キットのネタ探し

・県外から来ました。環境教育で先進的な活動をしている岡山県の方々から実践例などの情報や元気をもらいたいと思って参加しました。

・さまざまな人との交流

・出会い、つながり、今後の活動に活かす新たな活動に広げる

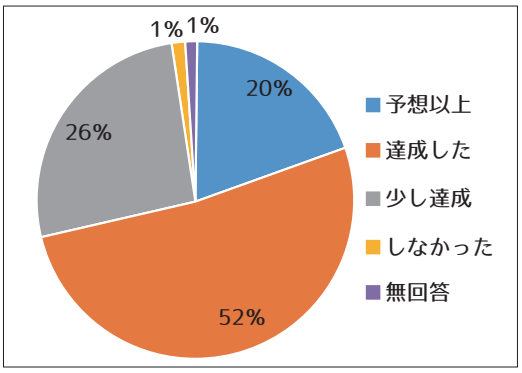
・環境学習、協働についての人、もの、事例の情報収集と持ち帰り

・将来への道さがしに！

・こういうミーティングの場を地元でできないかと思い参加した。

Q. その目的は達成されましたか？

(図 12: 目的は達成されましたか？)



・参加者の 20%が「予想以上」、52%が「達成した」、26%が「少し達成した」と回答した (図 12)。

Q. 今回のミーティングで考えたこと、発見したこと、参考になったことは？またこれからやってみたいことは？

・「協働」「学校」というキーワードが多く、「協働」に対する理解や進めるポイントや「学校」の考え方などが参考になったという意見が多くあった。

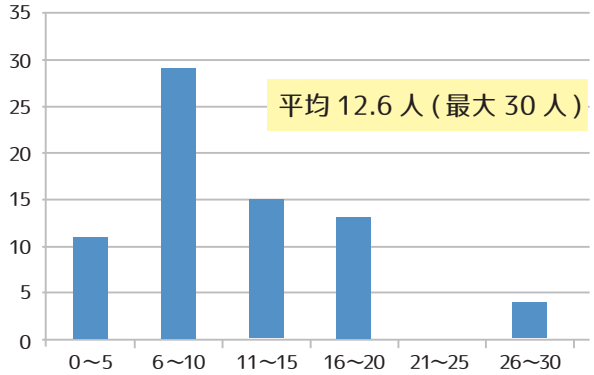
【一部抜粋】

・協働の仕方、またはじめ方のポイントが参考になった
・学校との協働
・ECO に関する実験や実習
・相手との関係を大切にする（協働）
・かんきょうひろば
・相手の立場を知ることで、協働がスムーズになるということ

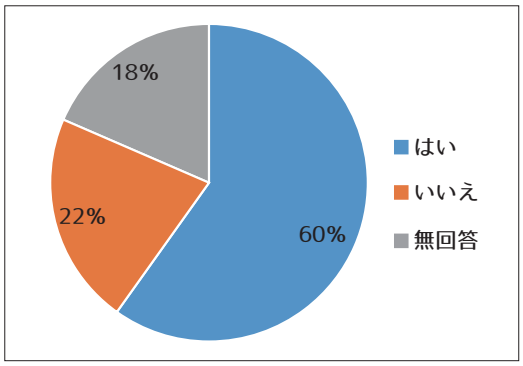
Q. 今回のミーティングで出会った / つながった人数は何人ですか？

・6 ～ 10 人の方々とつながった人が最も多く、平均で 12.6 人の方々とつながったと回答があった（最大30人、図 13）。
・また、そのつながった方々と協働のきっかけができたかについて、60%の方が「はい」と回答した（図 14）。
・具体的な協働の内容として、下記のように具体的な協働きっかけがあった。
「倉敷市環境学習センターを応援します」
「出前授業のオファーあり」
「高梁川流域学校で実践します」

（図13: 出会った / つながった人数は？）



（図14: その方々と協働のきっかけはできましたか？）



■次回の開催に向けて

Q.「第 3 回おかやま環境教育ミーティング」を平成 27 年 8 月の平日に開催を予定しています。参加できますか？

・平成 27 年 8 月開催予定の次回ミーティングへの参加について、33%の方が「参加できる」と回答し、3%が「参加できない」、55%が「わからない」と回答した（次ページ 図 15）。

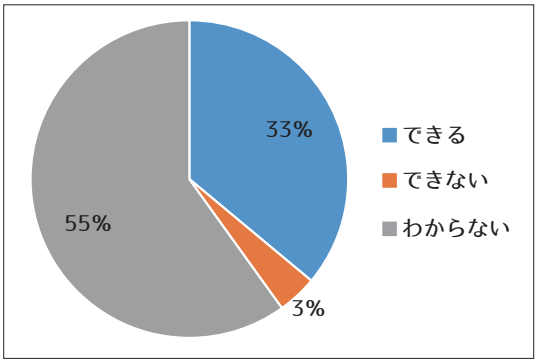
Q. 開催時間（期間）について、どのくらいが参加しやすいですか？

・開催時間（期間）については、半日が 29%、1 日が 61%、1 泊 2 日が 8%となった（次ページ 図 16）。

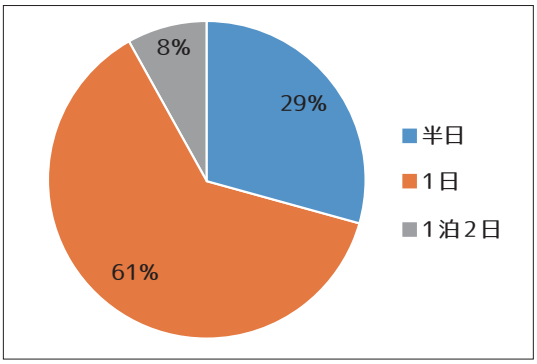
Q. 内容について、どんな内容（もしくはテーマ）や進め方をやってみたいですか？

・内容や進め方については、「講義＋ワークショップ」が 41%で最も多く、「ワークショップ」が 19%、「ブース展示」23%で比較的多かった（次ページ 図 17）。
・テーマについては、「協働」、「交流会」、「ネットワークづくり」が多く、「ビジョンづくり」、「分科会形式での意見交換」や「プログラムづくり」などへの要望もあった。

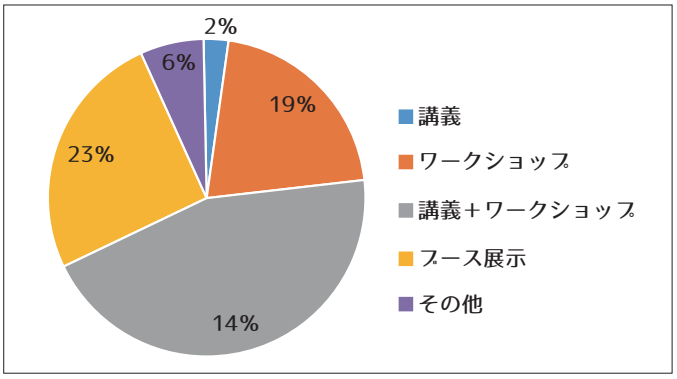
（図 15: 平成 27 年 8 月に参加できますか？）



（図 16: 開催時間（期間）はどのくらいが参加しやすいですか？）



（図 17: どんな内容や進め方をやってみたいですか？）



Q. 本ミーティングを含め、「かんきょうひろば」に対するご意見やご要望をお聞かせください

【一部抜粋】

≪環境教育ミーティングに対して≫

・楽しかったのでまた参加したい

・お昼休みがなく疲労感が残った

・パネルディスカッションが少し不消化・不燃焼であった。会場の意見をもっと使ってほしかったネ。技術論にかたよっていた節がある。心の持ち方や考え方をもっと聞きたかった

・予め、テーマ設定して（プログラムづくりとか）分科会事前登録制など、これからの発展形として検討してみて下さい

・続けること！この会が長く続いて欲しい

・時間に対して、全体的にゆとりがあればよいと思う。かけ足ですべて行っていたので

・疲れた！今回のフォロー、生まれた新しい協働、成果を発表してほしい

・椅子の配慮ですが、始めから円卓にしておくとか、えんたくん方式にするとか、移動をスムーズにできる配慮がいい。

≪かんきょうひろばに対して≫

・分野ごとに外部専門家との支援が受けられるような人材・資源支援をいただけるとうれしい

・教材、出前講座でいつもお世話になっております
今後とも、様々な出前講座を開催してみたいと思っているため、先生方の情報など、どんどん頂けるとありがたいです

スケジュール & 実施プロセス

＜実行委員会等開催スケジュール＞

11 月 17 日 (月) 17：00 - 19：00
　　第 1 回実行委員会 (事業概要説明、テーマや構成の検討)
12 月 3 日 (水)　17：00 - 19：00
　　第 2 回実行委員会 (テーマや構成の決定、チラシ (案) の作成)
12 月 17 日 (水)　広報･参加者募集開始
1 月 22 日 (木)　17：00 - 19：00
　　第 3 回実行委員会 (進捗状況の確認、詳細･当日役割分担の確認)
2 月 11 日 (水･祝)　10：00 - 17：00
　　第 2 回おかやま環境教育ミーティングの開催
3 月 20 日 (金)　17：00 - 19：00
　　ミーティングのふりかえり、次回の開催に向けて

＜実行委員会メンバー＞

- 環境団体　　1 名
- NPO　　2 名
- 民間企業　　3 名
- 公益財団　　1 名
- 行政　　2 名
  (岡山県新エネルギー･温暖化対策室 1 名、岡山市 ESD 世界会議推進局 1 名)
- 学校関係　　4 名
  (小学校教員 1 名、中学校教員 1 名、高等学校教員 1 名、教育委員会 1 名)
- 大学生　　2 名
- 事務局　　3 名 (環境学習センター「アスエコ」 3 名)

環境教育の輪はさらに広がります！
to be continued…